

放課後の居場所づくりとして 地域と連携した取組

学校名 **沖縄県**
金武町立金武小学校
全校児童数505名
(男子273名 女子232名)

実践内容

実施目的

- ①放課後、児童の居場所づくりとして自分の好きな部活動や地域のスポーツ活動を選択しスポーツに親しみ、楽しみながら人間関係づくりの場とする。
- ②児童の好きなスポーツのニーズに対応するためには地域人材を生かすとともに教育的視点を共有しながら生涯スポーツの実践を体験する。
- ③異年齢で部活動を継続することでマナーを身に付け、個々の将来の夢と目標をもちながら体力・運動能力の向上を図ることができる。

実施内容

1 各部の活動（3年以上部活動参加率約65%）

(1) 地域・家庭との連携・協力

種目や地域の特性を生かし、地域指導者、学校職員、保護者、教育委員会などが各々の立場から、放課後におけるスポーツの楽しさの享受・体力向上に向けて連携・協力する。

(2) 具体的な活動

主となる指導者は種目により地域指導者、学校職員、両者合同など異なる。各部は各地区・県大会へ参加する。参加に際しての児童の移動・安全管理等について保護者が積極的にかかわり円滑に行われている。

- ①野球部（4チーム計124名）月～金（16：30～18：00）各地域の球場で練習
- ②柔道部（11名）・空手部（16名）週2回（19：00～20：30）町武道館で稽古
- ③サッカー部（31名）月・水・金（16：30～18：00）小学校グラウンドで練習
- ④バレー部（30名）火～金（16：30～18：00）小学校体育館で練習
- ⑤バスケット部（29名）火～金（16：30～18：00）小学校体育館で練習
- ⑥陸上クラブ（金武メダリスト）5～7月までの期間限定で結成し全国小学校陸上競技交流大会・県新報児童オリンピックに向けて上記の各部より希望、推薦で練習

2 教育課程内の体力づくり

- ①朝のふれあい広場、毎週金曜日8：25～8：40グラウンドで実施（1学期長なわ跳び、2学期短なわ運動・検定、3学期持久走）
- ②校内持久走大会を学校行事として設定し、3月の大会に向けて毎週金曜日の朝のふれあい広場の時間も含めて毎朝少し早目の登校で各自のめあてに添って持久走を行う。

実施上で工夫したこと

- ①各部の監督・コーチ、学校、教育委員会で児童の健全育成の立場から意見交換・情報交換し健康・安全・家庭学習時間の確保、家族の時間の確保等を確認できるようにした。
- ②居場所づくりのひとつとして部活動の意義を全児童に講話で伝え参加することを奨励し、そのことを学校便りで保護者にも理解を得るように努めた。
- ③学校での活動の様子や各部の活躍や成果を地域・保護者に早めに伝え共感し合った。

主な成果

- ①スポーツへの興味・関心が高まり、入部者が増え放課後の居場所としてスポーツに親しみ異年齢集団の中であいさつ、ルールやマナーを身に付けることができた。
- ②陸上クラブを結成し大会に向けて練習することで、どのスポーツにも「走」が基本であることを認識し目標をもって挑戦する児童が増えた。
- ③各部の継続的活動と学校の体育的行事を通して運動・スポーツを楽しむ機会が全体として増え児童個々の運動・体力の向上が結果的に図られた。



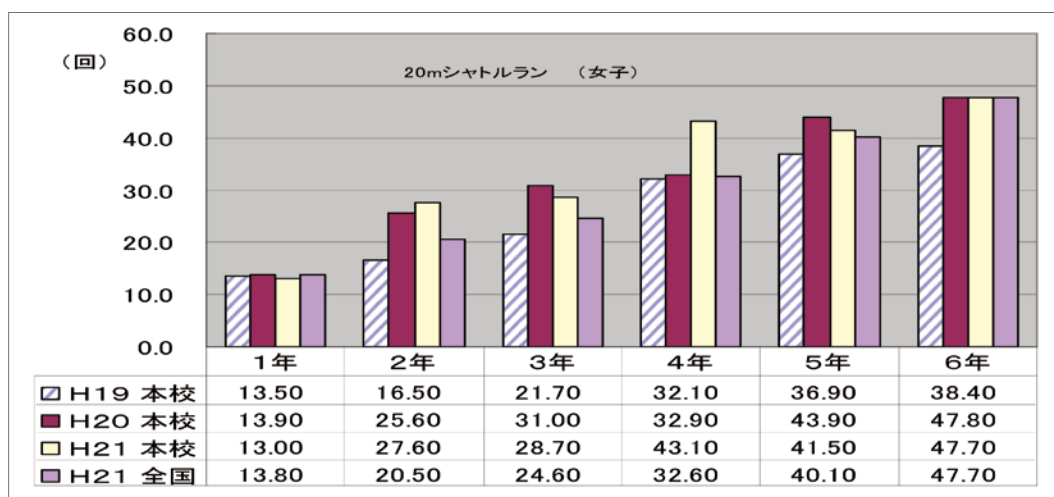
朝のふれあい広場(2学期)

運動会となわ跳び検定に向けての全体練習



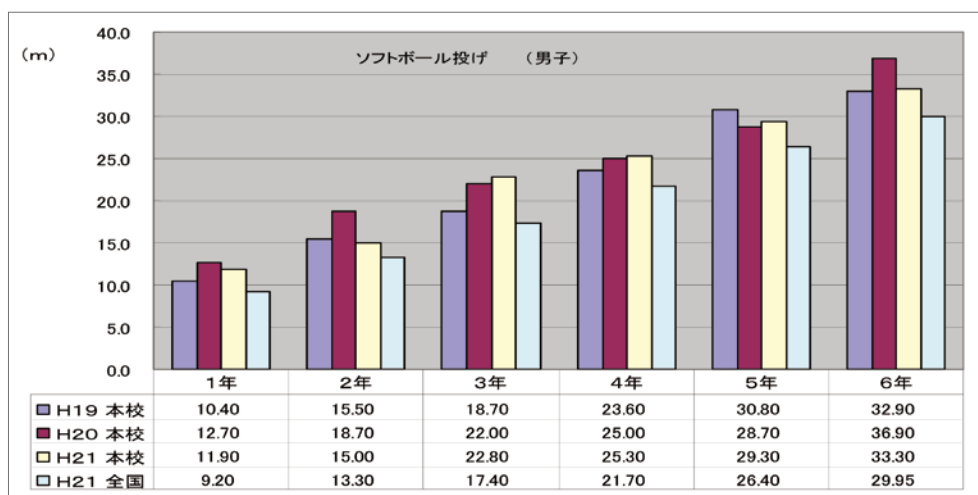
朝のふれあい広場(3学期)

3月の校内持久走大会に向けて走り込み



新体力テスト(シャトルラン)

日々の諸部活動・校内持久走大会に向けての練習を通して走力・持久力の向上が図れた



新体力テスト(ソフトボール投げ)

日々の部活動(特に野球部)の練習を通して「投げる力」が向上した